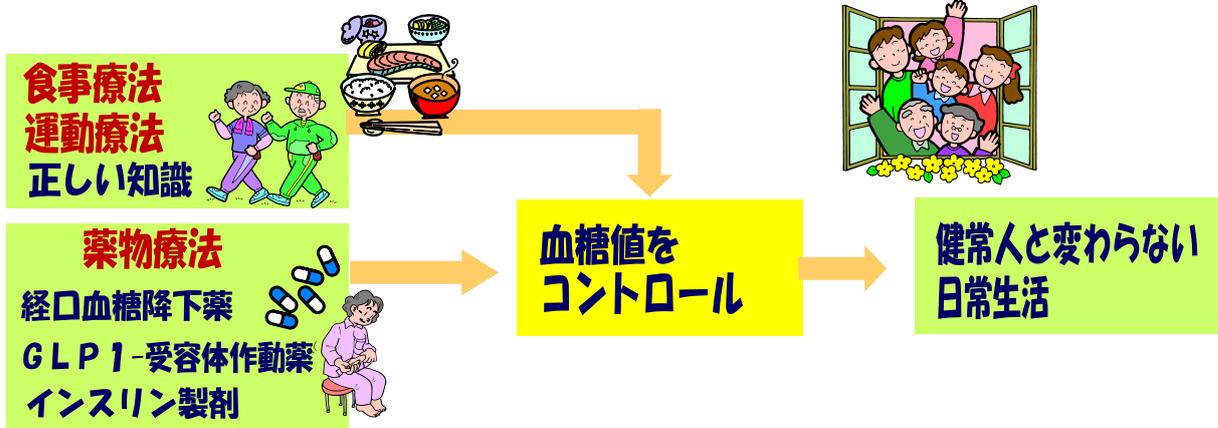


糖尿病治療の基本

糖尿病治療の基本は食事療法、運動療法です。これらを行っても、良好な血糖コントロールが得られないときに、薬物療法を検討します。現在、日本で使用されている薬剤には、7種類の経口薬と2種類の注射薬があります。



糖尿病薬の種類と作用

薬品名		作用	起こりやすい副作用と症状
SU薬 (インスリン分泌促進系)	アマリール、グリミクロン、 オイグルコン、ダオニール	インスリン分泌の促進	低血糖 体重増加
グリニド薬 (インスリン分泌促進系)	スターシス、ファスティック、 グルファスト、シュアポスト	より速やかなインスリン分泌の促進・食後高血糖の改善	低血糖 体重増加
DPP-4阻害薬 (インスリン分泌促進系)	ジャヌビア、グラクティブ、エクア ネシーナ、テネリア、トラゼンタ	膵臓に働くインクレチンというホルモンの働きを強めて血糖値を下げる	SU薬との併用で低血糖
ビグアナイド薬 (インスリン抵抗性改善系)	メット、メトグルコ、ジベトンS	肝臓が糖を作り出す作用を抑制する。筋肉に働きかけインスリンの作用を高め血糖値を下げる	消化器症状: 下痢・お腹が張る・食欲不振・胃がむかつく
チアゾリジン薬 (インスリン抵抗性改善系)	アクトス	骨格筋・肝臓でのインスリン感受性の改善	むくみ(女性に多い) 体重増加
αグルコシダーゼ阻害薬 (糖吸収・排泄調整系)	セイブル、ベイスン、グルコバイ	炭水化物の吸収遅延、食後高血糖の改善	低血糖 お腹が張る・おならの回数が増える
SGLT2阻害薬 (糖吸収・排泄調整系)	スーグラ、フォシーガ、ルセフィ、 デベルザ、カナグル、アプルウェイ	尿と一緒に糖を排出させる	低血糖 空腹感・冷や汗・手の震え

次のような場合は必ず医療機関で治療を受けてください

- 糖分量を摂っても低血糖の症状が改善しない場合
- 症状が重い場合(糖分量を摂れない、意識が低下するなど)
- 症状が長引いたり、繰り返し起こる場合



次回は12月20日(水)テーマ「年末年始の過ごし方」です

春日野会病院 糖尿病教室